Bowen 病

防衛医大皮膚科における Bowen 病19例の
統計的観察

仲田 龍一* 大畑 弘幸* 高橋 洋文* 川田 暁 *
比留間政太郎* 石橋 明* 久木田 淳*

Summary

昭和58年1月より昭和63年12月までの6年間に当教室で経験した Bowen 病19例について報告した。性別は男10例、女9例、発症年齢は42歳から91歳までで、50歳以上の症例が19例中17例を占めた。多発例は2例に、内臓悪性腫瘍の合併は1例に認めた。また DAKOB580を用い Human papilloma virus の検索を行い1例で陽性所見を得た。

緒 言

Bowen 病は表皮内癌の一型で、1912年 Bowen¹⁾により Precancerous dermatose として、記載された疾患である。今回、我々は本症の19例を経験し統計的観察を行なった。また Human papilloma virus の検索を実施し、1例に陽性所見を得たので報告する。

対 象

昭和58年1月より63年12月までの6年間に当科を受診し組織学的に Bowen 病と診断された19名（組織検体数23個）の患者を対象とした。これらについて、性別、発症年齢、発症部位、単発または多発、内臓悪性腫瘍の合併、治療および予後について検討した。さらにパラフィン

切片にて DAKO B580を用いた ABC 法により Human papilloma virus の検索を実施した。

結 果

全症例のまとめを表1に示した。

1. 性・年齢

性別では男性8例、女性9例で、男女差はなく、発症年齢は、初診時の年齢で42歳から91歳までで、40歳代が2例、50歳代が5例、60歳代が3例、70歳代が6例、80歳以上が3例であった（表2）。

2. 発生部位

19症例、23個の腫瘍の発生部位は、下肢に11個、上肢に3個、体幹に5個、頭部・顔面に3個、外陰部に1個であった（表3）。

3. 多発例

多発例は2例（症例3、症例7）に認めた。2例とも女性例で、砒素の摂取の既往はなかった。

4. 内臓悪性腫瘍の合併について

内臓悪性腫瘍の合併は1例（症例6）に認め

* Ryuuichi NAKATA, Hiroyuki OHATA, Hirofumi TAKAHASHI, Akira KAWADA, Masataro HIRUMA, Akira ISHIBASHI, Atsushi KUKITA：防衛医科大学校皮膚科学教室

表 1. 自験例 (昭和58年 1 月～63年12月)

No.	年齢	性	初診年月 (発症時期)	部 位	大きさ(mm)	備 考
1	79	男	58年 9月 (54年頃)	右大腿	53x35	多発性:
2	44	女	58年 9月 (55年頃)	外陰部	25x16	
3	50	女	59年10月 (56年頃)	右大腿		
				左手指		
				腹部		
4	42	男	59年10月 (57年頃)	右下腿		
5	60	男	60年 7月 (59年頃)	右前腕	24x18	
6	52	男	61年 2月 (59年頃)	右大腿	14x10	
7	80	男	61年 4月 (59年頃)	右下腿	35x25	
8	84	男	61年 6月 (60年頃)	右下腿	20x18	腺癌 (63年死亡)
9	75	女	61年11月 (60年頃)	頭部	6x8	多発性:
				腹部	15x11	
				右下腿	26x24	
10	73	女	62年 5月 (58年頃)	頭部	20x16	
11	62	女	62年11月 (59年頃)	右手背	28x26	
12	60	女	62年11月 (58年頃)	右下腿	16x14	
13	70	男	63年 1月 (53年頃)	右大腿	60x40	胃ポリープ、胆石
14	54	女	63年 3月 (61年頃)	胸部	15x15	
15	57	男	63年 5月 (62年頃)	左下腿	20x16	未治療
16	61	女	63年 6月 (62年頃)	背部	12x12	
17	70	女	63年 9月 (57年頃)	顔面	14x12	
18	79	男	63年10月 (62年頃)	左下腿	24x20	
19	87	男	63年10月 (53年頃)	腹部	31x30	

表 2. Bowen 病の性別・年齢別頻度

	男	女	合計
～39	0	0	0
40～49	1	1	2
50～59	2	3	5
60～69	1	2	3
70～79	3	3	6
80以上	3	0	3
合 計	10	9	19

表 3. Bowen 病の部位別発生頻度

発生部位	個数
下肢	11
大腿	(4)
下腿	(7)
上肢	3
手背	(1)
手指	(1)
前腕	(1)
頭部	2
顔面	1
体幹	5
外陰部	1
合 計	23

た。症例 6 は84歳の男性例で Bowen 病治療 2 年後に腺癌で死亡した。また症例10の男性例では、Bowen 病と診断後の悪性腫瘍の検索にて Class IIIの胃ポリープが認められ、現在経過観察中である。

5. 治療および予後について

切除を拒否している症例12の男性例を除いて、外科的切除を実施した。経過観察の短い症

例もあるが、再発は 1 例も認めていない。

6. HPV について

19例全例に対して HPV の検索を実施し、症例 2 で陽性所見が得られた。以下、HPV 陽性例について述べる。

症 例 2

患 者：44歳，女性

初 診：昭和58年9月14日

主 訴：外陰部の色素斑。

家族歴，既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：3年前より外陰部に皮疹出現し，徐々に拡大してきた。

現 症：外陰部に，25×16mm大の境界明瞭で辺縁不整形のやや隆起した黒褐色斑を認める。

痂皮の付着を認める。

病理組織学的所見：HE染色組織像で，表皮内には過角化・錯角化・表皮の肥厚を認め，腫瘍細胞には，細胞および核の大小不同，個細胞角化，多数の核分裂像がみられた（図1）。

免疫組織学的所見：HPV染色で核に一致して陽性所見を認めた（図2）。

治療および経過：皮疹切除後5年6ヵ月を経過し，再発は認めない。

図1．症例2．病理組織像（HE染色x100）。

図2．症例2．HPV抗原の免疫組織化学的所見。

考 察

当教室における Bowen 病19例については、発症年齢は従来の報告²⁾⁻⁴⁾同様に50歳以上の症例が19例中17例を占めた。発生部位は、本邦での症例は欧米に比べ、露光部位での発症が少ないと報告されているが、我々の症例でも同様であった。

Bowen 病の発癌因子としては、従来より砒素・紫外線・放射線・外傷・遺伝などがあげられている。今回の19例では1例も砒素摂取の既往を確認できなかった。また露光部位よりも非露光部位に好発していた。最近、HPV による発癌性が注目されており Bowen 病の発症に関しても HPV の関与が指摘されている。1983年 Ikenberg ら⁵⁾が Bowen 病10例のうち6例に HPV-16DNA を証明し報告したのが初めて、我が国では1986年に川島ら⁶⁾が、1987年に鈴木ら^{7,8)}が報告している。今回、我々も免疫組織学的に HPV の検索を行い19例のうち1例(症例2)に陽性所見を得た。腫瘍中心部の核の異型性の強い部分では陰性であったが、辺縁部で陽性所見を得た。

Bowen 病の治療に関しては、現在我々は腫瘍を生検し、組織学的に Bowen 病と診断後に、腫瘍辺縁より1~2 cm 離し脂肪層で切除している。

また内臓悪性腫瘍の合併については、従来よりその関係の有無について論議されている⁴⁾⁹⁾¹⁰⁾が、今回の症例では19例中1例のみであった。この症例では Bowen 病の治療後に悪性腫瘍の検査を実施したが、その時点では特に見つからず、治療後1年6ヵ月後に発見され、さらに3ヵ月後に膀胱癌にて死亡した。また

Bowen 病と診断後の検査にて Class III の胃ポリープが発見され早期に治療できた症例(症例13)がある。Bowen 病で多発例や砒素摂取のある症例では内臓悪性腫瘍を合併する例が多いといわれるが、通常みられる単発例においても、悪性腫瘍の検査は十分に行い、また経過観察中にも定期的に実施すべきと考えた。

文 献

1. Bowen, J.T.: Precancerous dermatoses; A study of chronic atypical epithelial proliferation. *J. Cut. Dis.*, **30**: 241-255, 1912.
2. 竹田祐子, 宮崎孝夫, 湯 正明, 他: Bowen 病の疫学. *皮膚*, **28**: 145-150, 1986.
3. 越智敬三, 麻上千鳥, 西山和光, 他: 最近20年間におけるボーエン病教室例の臨床的, 統計的検討. *西日皮膚*, **46**: 119-123, 1984.
4. 川田 暁, 御藤良裕, 佐藤貴浩, 他: Bowen 病の8例—内臓悪性腫瘍との関連について—. *防医大誌*, **13**: 169-173, 1988.
5. Ikenberg, H., Gissmann L., Gross, G., et al.: Human papillomavirus type-16-related DNA in genital Bowen's disease and in Bowenoid papulosis. *Int. J. Cancer.*, **32**: 563-565, 1983.
6. Kawashima, M., Jablonska, S., Favre, M., et al.: Characterization of a New Type of Human Papillomavirus Found in a Lesion of Bowen's Disease of the Skin. *J. Virol.*, **57**: 688-692, 1986.
7. 鈴木秀明, 森嶋隆文: Bowenoid Papulosis と Bowen 病における乳頭腫ウイルス抗原の免疫組織化学的研究. *日皮会誌*, **97**: 1193-1200, 1987.
8. 鈴木秀明, 森嶋隆文: HPV 抗原陽性を示した指・手の Bowen 病. *皮膚病診療*, **11**: 401-404, 1989.
9. 上野賢一, 横山文男, 儀保元雄: Bowen 病と悪性腫瘍の合併について. *皮膚科の臨床*, **10**: 392-399, 1968.
10. 池田重雄, 宮里 肇: Bowen 病および紅色肥厚症. 現代皮膚科学大系9巻, 上皮性腫瘍. 中山書店, 東京, pp.225-234, 1980.